

第 5 回香川大学工学部祭

代表者 木村 昭博 (工学研究科材料創造工学専攻 2 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、香川大学工学部の学生が日頃行っている勉強や研究の成果を生かして、催し物を行うことで来場者に香川大学工学部をより深く知っていただく場を提供することを目的としています。概要は下記の通りです。香川大学工学部祭は香川大学工学部祭実行委員会によって運営されている。工学部祭は主催日を工学部オープンキャンパスに合わせて毎年開催されている。オープンキャンパスの前日を準備日、後日を清掃日とする。前日が天候不良の際には工学部祭当日に準備・運営を行う。また、当日悪天候により工学部祭を施行できない場合は、やむをえず、中止とする。開催時間は午前 10 時から午後 6 時を予定し、実施場所は工学部キャンパス内広場・各研究棟・講義室内とする。片付け・清掃については可能な限り工学部祭当日に行い、当日行うには困難な場合のみ後日行うものとする。

2. 実施スケジュール

平成 20 年 10 月 26 日 第 5 回香川大学工学部祭

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、香川大学工学部の学生が日頃行っている勉強や研究の成果を生かして、催し物を行うことで来場者に香川大学工学部をよく深く知っていただく場を提供することを目的として行いました。毎年恒例である「人気授業体験会」や「公開卒論発表会」では高校生にとって香川大学工学部では実際にどのような授業・研究が行われているかを知る絶好のチャンスになったと思われます。今年度の工学部祭はメインゲストによる招待講演は行いませんでしたが、模擬店が過去最高の 8 店舗、学生によるバンド等学生が主体となった工学部祭を行うことができました。

今年度は午前中雨が降っており、来場者は建物内で行われている展示物等に参加し、ステージ周辺のイベントにはあまり積極的に参加していただくことはできませんでした。今後は、3 号館ロビーや生協前等の室内かつ比較的広い場所等に場所を移動したりして天候に左右されない工学部祭を目指していきたいと思っています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業はオープンキャンパスの一環として、高校生や近隣の方に訪れて頂くことができました。高校生にとって「人気授業体験会」や「公開卒論発表会」は香川大学工学部でどのような授業、研究が行われているかを知る絶好の機会になったと思われます。また、高校生だけでなくこれから研究室配属する3年生以下の学生にとってもよかったのではないかと考えられます。このプロジェクト事業を通して香川大学ではどのような授業・研究が行われているかを知る場を提供することによって香川大学へのより理解が深まるとともに自主的な表現の場を得た学生にとって自らの研究や学生生活を見つめ直すきっかけにもなったと考えています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

学内の事務の方々を始め、印刷会社など多くの方のご協力の下、今回のプロジェクトを開催することができました。この方々無しでは工学部祭を開催することは困難であったと思います。

このプロジェクト事業を通して工学部を運営することの難しさ、人と協力することの大切さを得ることができたと考えています。このような経験は通常の学生生活では得られない貴重な経験であると思っています。このような経験を生かして今後の学生生活でも人と協力し研究等に取り組んで生きたいと考えています。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回で5回目の香川大学工学部祭を迎え、近隣の方々にもこの時期になると香川大学工学部でイベントがあると認識していただけていると思っています。しかし、本学の“香川大学祭”や医学部の“医学部祭”と比べるとまだまだ規模的に小さくやれることも限られてきます。その限られた中で来場者に楽しんでいただけるような工学部祭を作り続けていくことを目標にして今後頑張っていきたいと思っています。今までの工学部祭実行委員会のメンバーは大学院生で構成されてきましたが、今年度新たに学部生も加わり世代交代は着実に進めてきました。しかし、学部生といっても4年生であり、来年度にはまた大学院生のみでの構成となってしまいます。そのため1年生2年生が工学部祭に興味を持って工学部祭実行委員として工学部祭を盛り上げていただきたいと思います。最後になりますが、今回の学生支援プロジェクト事業は学生にとって様々な企画を提案、実行していくことで貴重な自己表現の場を得ることができたと思います。しかし、支援分担金の使用用途が限られている点と使用できる条件が不透明である点等で苦労いたしました。今回使用した支援分担金は物品という形では大学には残ってはいませんが、実行委員を始め工学部祭に参加した学生にとっては通常の学生生活では得られない貴重な経験を積むことができたと考えています。このように形には残ることのできない資産があるということにご理解をいただき、支援分担金の使用用途が拡大されることをお願いしたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者 木村 昭博 (工学研究科 2年)

構成員 平島 知彦 (工学研究科 1年)

高井 惇 (工学研究科 2年)

石井 健太 (工学部 4年)

森 貴敏 (工学部 4年)

小田 祐一 (工学研究科 2年)

兼田 尚幸 (工学研究科 1年)

米田 弘志 (工学部 4年)